

広島技調じゃけん！通信

令和元年度
第1回

民間技術説明会を開催しました！

「民間技術説明会」「実りある学舎」では、建設コンサルタントや建設会社といった一般企業の方々、他省庁・自治体職員の方々に多数ご来場いただき、大盛況のうちに終了することができました。

本説明会では、5つの新技術を紹介いただきました。

《日 時》令和元年8月8日(木) 14:00～16:30

《紹介技術》

- ① フラップゲート式陸開 【日立造船株式会社】
- ② ジャイロプレス工法 【一般社団法人全国圧入協会】
- ③ 電位測定による流電陽極出力電流逆解析手法【日本防蝕工業株式会社】
- ④ 炭素繊維複合材ケーブルCFCC® 【東京製綱株式会社】
- ⑤ 塩害対策用・空港用鑄鉄製グレーチング 【日之出水道機器株式会社】



【フラップゲート式陸開】 (日立造船株式会社)

無動力・操作不要であり、津波、高潮時の浸水を利用して自動的に立ち上がる防潮壁である。



【ジャイロプレス工法】

(一般社団法人 全国圧入協会)

施工が完了した杭を反力としながら、杭の頭部を自走して先端ビット付き鋼管杭を回転圧入する工法である。従来、全周回転掘削機などによって事前の障害物撤去を必要としていたところに、直接杭を圧入できるため、工期短縮とコスト低減ができる技術。



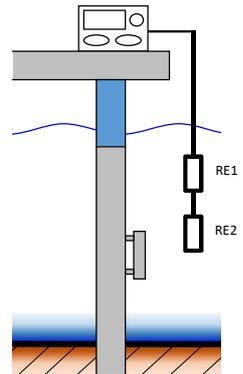
【電位測定による流電陽極出力電流逆解析手法】 (日本防蝕工業株式会社)

電気防食工法の内、流電陽極法の陽極出力電流を逆解析によって求める手法。

陽極出力電流は陽極の残寿命（更新時期）を把握するために重要な情報である。

【メリット】

- ・危険な潜水作業を伴わず、陽極の残寿命が推定可能。（省力化）
- ・通常点検の電位測定とそれほど変わらない作業でデータ収集が可能。（省力化）
- ・陽極脱落なども検知可能。



【炭素繊維複合材ケーブルCFCC®】

(東京製綱インターナショナル株式会社)

本技術を補強材や緊張材に使用することにより、長年にわたり腐食しない構造物が実現可能となるので、耐久性の優れた港湾インフラ作りが期待できる。



参加者からは、

「既知の技術もあったが、技術の視点だけでなく、ライフサイクルコストを主においてみると新たな利点が見えてきた」

「施工検討に携わっており、人の操作が不要なフラップゲート、既設コンクリート構造物など硬質な地盤への鋼管杭の圧入工法、鋼材防蝕用陽極の残寿命を把握する技術等はタイムリーな情報で参考になった」

などのお声が寄せられました！

【塩害対策用・空港用鑄鉄製グレーチング】

(日之出水道機器株式会社)

本技術の活用により、長期間安全を担保することが可能となりライフサイクルコストの縮減に繋がる。

